

「こんにちは」 健保組合です！

「市川運送(株)」
の巻

一大工業地帯 塩浜に二階目立つ近代的社屋

梅雨入りの声がそろそろ全国で聞こえてきて、またうつつという季節が到来しようという六月十日、この日は平成のロイヤルウェディングが行われ、新しいプリンセスの誕生を誰もが祝福した翌日でもありました。まだ、その興奮が冷めやらぬこの日に、事業所訪問のひとつの節目ともいえる第一〇回目としてお邪魔したのは、市川市に所在する市川運送株式会社でした。

当日は、梅雨の中休みなのか、真夏を思わせる日差しの中、私たちは事務所から市川市に向かって車を走らせました。都内に向かう道路は、昨日の交通規制が影響したのかやや渋滞が顕著でありました。そんななかで私たちは、偶然にも鋼材を積載した、市川運送のトラックに出会いました(渋滞の中ご苦勞様です)。今

日の、目的は、京葉線の市川塩浜駅の近隣にあり、この近辺は工場が立ち並ぶ一大工業地帯であります。その中で一階目立つ近代的な社屋、それが市川運送株式会社です(後でお聞きしたのですが、この社屋は三年前に新築されたそうです)。

エレベーターで二階へ、そして本社事務所に入り、「こんにちは健保組合です！」と挨拶しますと、女性職員の方を介して、当組合の役員を務めておられる石渡部長が「ようこそ」と丁寧に迎えてくださいました。そして、応接室に案内され、しばらくすると、三浦専務が入室されました。私たちの取材におつき合くださいました。



● 健診受診率は 九割強

初めに、私たち事務局から、現在の組合の概況報告から、取材が始まりました。最初の話題は、健康管理に関するものであります。同社は、千葉県トラック協会の実施する健康診断の会場にもなっており、石渡部長によると市川運送自体九割強の方が受診されているとのことでありました。この受診率の高さも以前は低調だったのが、氏が検診等は自分の健康を守るためのものであることの指導に力を入れた賜物であることがうかがえました。

それは、口うるさいほど広報伝し、また、受診後の結果についても氏が自ら一言添えて手渡しをされているそうです。「健康管理意識の高揚を図るためには根気よく啓蒙していくこと」と氏は話されましたが、健康保険組合にも同様なことがいえると思います。こうした地道な活動が実を結ぶことはいまでもありません。

さらに話題は移行し、「人を財産と認識し大切にする」というテーマのもと、運行管理等についてもハ-



▶三浦専務(左)と石渡部長

ド、ソフトの両面においてかなり傾注されております。

車両については、整備専任者が車の健康を守り、人材育成については、社会に責任ある職務を全うするため常に技術・マナーの向上を図っております。

このような企業努力の成果として、同社ではドライバーとして定年を迎える方がいらっしやるとのこと。二〇年、三〇年と永年にわたり務めあげ、満足感に満ちた人生を送られたことはほんとうに喜ばしいことだと思えました。

● 昭和五十一年に国府台 より移転

続いて、三浦専務に市川運送の歴史についてお尋ねすると、同社は、昭和二十五年に市川小型自動車運送株式会社としてスタートし、その後市川運送株式会社と社名を改め、昭和五十二年三月に市川市国府台より現在の同市塩浜に移転されたそうです。移転時には、通勤による不都合で社員の方々が若干減少したそうです。この地に移転されたことは、思いきつた賭けだったのかもしれませんが、先見の明を持ってそれを断行された

ことが同社にとって、大きく飛躍する一因だったことは誰もが認めることでしょう。

まだまだ話題は尽きませんでした。最後に三浦専務の健康管理についてお聞きすると、月に一度定期検診に通われたり、リフレッシュのために休日は散歩をされる等、「何もしていない」と謙遜されましたが、氏は、経理部門を担当されている令弟と共に車の両輪の如く、永年その職務を務めてこられた母堂でいらっしゃる同社社長を支えておられるように、社のリーダーとしての自覚をお持ちであることが伺えました。

こうして、多岐にわたって実のある話題で終始した対談を終えました。再開発が叫ばれているこの地域において、人という大きな財産を沢山持つ市川運送株式会社はリーダーシップを遺憾なく発揮し発展していくことを確信し、私たちは帰路につきました。取材にご協力いただきありがとうございました。

(皆さんは、今年の夏をどう過ごすのか、もうプランを立てたでしょうか。この機関誌が皆さんのお手元に届くころにはまさに『夏』、どうか健康に気をつけて素敵な想い出をおつくりください。)